

今後の行事予定

第22回 永生会学術集会

市民公開講座

平成29年5月13日(土) 場所: 南多摩病院 救急棟8階

●第1部 13:00~14:00

講座内容 患者と医療者ができる医療・介護を目指して

講師: 認定特定非営利活動法人 ささえあい医療人権センターCOML(コムル) 理事長 山口育子 先生

●第2部 14:30~15:30

講座内容 認知症サポーター養成講座

講師: 八王子市高齢者あんしん相談センター 片倉 ケアマネージャー

認知症サポーターとは

認知症サポーターは、厚生労働省が推奨する「認知症サポーター養成講座」を受講した人なら誰でもなることができる、認知症の人やその家族の「応援者」です。現在、日本にいる認知症サポーターの数は、なんと約850万人(H28年12月時点)もいます。

受講修了者にはオレンジリングをプレゼント!!

お申込み
お問い合わせ

5月10日(水)までに下記の申込フォーム、またはFAXにてお申し込みください。

<https://goo.gl/forms/Cgdjdb1MRMk9YYLe2> FAX: 042-661-1331

医療法人社団 永生会 学術委員会 担当: 篠田(永生病院総務部) TEL: 042-661-4108



医療法人社団 永生会

理念: 人々に質の高い、安心な、やすらぎにあふれた、リハビリ・マインドのあるヘルスケアサービスを提供します。

永生病院 〒193-0942 東京都八王子市鴨田町583-15 TEL.042-661-4108

南多摩病院 〒193-0832 東京都八王子市散田町3-10-1 TEL.042-663-0111

永生クリニック 〒193-0942 東京都八王子市鴨田町588-17 TEL.042-661-7780

クリニック0(ゼロ) 〒193-0943 東京都八王子市寺田町490 TEL.042-666-1556

●介護老人保健施設

イマジン 〒193-0942 東京都八王子市鴨田町583-15 TEL.042-662-7000

マイウェイ四谷 〒160-0015 東京都新宿区大京町1-3 TEL.03-3355-0428

オネスティ南町田 〒194-0004 東京都町田市鶴間7-3-3 TEL.042-788-0373

●グループホーム

寿限無 〒193-0942 東京都八王子市鴨田町590-4 TEL.042-662-6500

●訪問看護ステーション

めだか 〒193-0942 東京都八王子市鴨田町513-13-1F TEL.042-661-5080

とんぼ 〒193-0914 東京都八王子市片倉町440-2 TEL.042-632-6351

ひばり 〒193-0835 東京都八王子市千人町2-13-8-1F TEL.042-649-6917

いるか 〒193-0364 東京都八王子市南大沢1-18-11-A103 TEL.042-659-2213

口笛 〒194-0004 東京都町田市鶴間7-3-3 TEL.042-706-8810

●居宅介護支援事業所

ケアプランセンター えいせい 〒193-0942 東京都八王子市鴨田町583-15 TEL.042-662-7020

居宅介護支援事業所 片倉 〒193-0914 東京都八王子市片倉町440-2 TEL.042-632-6335

ケアプランセンター ぴあの 〒194-0004 東京都町田市鶴間7-3-3 TEL.042-706-8808

●八王子市高齢者あんしん相談センター

八王子市高齢者あんしん相談センター 片倉 〒193-0914 東京都八王子市片倉町440-2 TEL.042-632-6331

八王子市高齢者あんしん相談センター 寺田 〒193-0943 東京都八王子市寺田町137-4 TEL.042-673-6425

●病児保育室

はる 〒193-0832 東京都八王子市散田町3-8-10 アーデルKSハイム1F TEL.042-663-0111 (南多摩病院 代表)

医療法人社団 明生会 セントラル病院

本院 〒150-0046 東京都渋谷区松濤2-18-1 TEL.03-3467-5131

分院 〒150-0045 東京都渋谷区神泉町25-1 TEL.03-3465-5131

松濤 〒150-0046 東京都渋谷区松濤2-11-12 TEL.03-3485-5131

●永生会協力会社

在宅総合支援サービス 十字会ケアステーション 〒193-0833 東京都八王子市めじろ台1-9-1 TEL.0120-537-0800

シャトルバス運行中 永生病院 ▶ めじろ台駅 ▶ 南多摩病院 ▶ 西八王子駅 ▶ めじろ台駅 ▶ 永生病院

さまざまな永生会の機能を患者様・ご家族様・ご利用者様に余すことなく提供できればと考え、コールセンターを開設しています。

eisei 永生会コールセンター ☎ 0120-001-083 <http://eisei.or.jp/>

通信eiseiは、年齢や障害の有無に関係なく、多くの人が利用できるようにデザインされたフォント(ユニバーサルデザインフォント)を使用しています。

通信



eisei

地域と患者さまに、永生会の今をお届けする



●地域に根ざしたその人らしい生活の場、認知症グループホーム寿限無

CONTENTS

●MESSAGE 医療法人社団永生会理事長 安藤高朗からのメッセージ ●表紙について

●えいせいNEWS ●お知らせ

●FEATURE

●知って得するお話し ●医療と介護の今後

●交流TOPIC ●あのかたこのかた ●今後の行事予定

74
2017.02

理事長

あんどう たかお

安藤高朗からのメッセージ**地域でその人らしい生活の場を。グループホーム寿限無のご紹介。**

閑静な住宅街で一般的な住宅と変わらず地域にとけ込んだグループホーム寿限無。当初、施設名を八王子出身の大スター、北島三郎の「与作」にしないかと提案したのですが、まわりからは猛反対され却下…。二転三転しながら、最後は長生きを願って「寿限無」となりました。

グループホームとは、認知症のご利用者さまを対象にした専門的なケアを提供するサービスで、正式名称は「認知症対応型共同生活介護」です。ご利用者さまが可能な限り自立した日常生活を送ることができるように、食事や入浴などの日常生活上の支援や、機能訓練などのサービスを受けます。寿限無の生活空間は2ユニット。各ユニットに9室ずつ個室が用意されており、プライベートな空間もしっかりと確保されています。職員の保育施設「あんず」と併設されているのも特徴で、イベント時には子どもたちとご利用者さまのふれ合いのコラボレーションが多く笑顔を生んでいます。

その人らしさを尊重するこの寿限無。病院や施設では徘徊したり暴れたりと行動障害が目立っていたのに、入所して生活を始めると落ち着きを取り戻すご利用者さまが多くいると言います。その人本来の生活や過ごし方が、認知症の進行を遅らせたり不安を解消したりできたと考えられます。

また、ご利用者さまの平均年齢は89歳と八王子市内のグループホームの中でもかなり高齢。開設時から入所されている方が現在も半分以上いるこの寿限無は、まさに住み慣れた地域で最期まで生活できる場と言えるでしょう。

さらに地域交流にも積極的で、近隣の学校から職場見学・体験で訪れる生徒も多くいます。認知症であっても昔の記憶がしっかり残っている方はいますので、生徒たちと話す場を設けて体験談を語ってもらうなど、昔と今をつなぐという地

域活動は今後のグループホームの大切な役割かもしれません。年間通して四季折々のイベントを屋外でも行っていますので、見かけましたら気軽にお立ち寄りください。

医療法人社団永生会理事長 安藤高朗



毎年近隣の学校から職場見学・体験で生徒さんも訪れます。

Blog安藤たかおの見聞録 <http://ameblo.jp/ando-takao/><https://www.facebook.com/takao.ando.395>**表紙について****グループホーム寿限無**

家の中の自分のお部屋というイメージで、アットホームに過ごせる雰囲気づくりを目指しています。共同の生活スペースは明るく広く、そして暖かい。我が家のように感じていただける空間です。季節に応じて旅行をしたり、地域の子どもたちとふれ合ったり。ひとりひとりに合った生活の場となるよう努めています。

2月3日 節分(鬼の練り歩き)

今年も恒例の節分イベント。鬼のコスプレ練り歩きが行われました。鬼が自ら乗り込んで豆(正確にはお菓子)を患者さまに配るという、大よそ世間一般的の節分とはルールが違いますが毎回好評!栄養士スタッフが病院の行事食を用意していたのでプロモーション(?)にも参加。施設内の生活は季節を感じる機会が少ないので、このようなイベントや食事を楽しんでくれると嬉しいです。

**2月6日 新宿区「ぬくもりだより」の皆さま、マイウェイ四谷を見学**

新宿区が75歳以上のひとり暮らし、または75歳以上のみの世帯の方を対象に配布している情報紙「ぬくもりだより」。この情報誌の配布員と新宿区職員、合計24名がマイウェイ四谷を見学されました。地域内で地域を支えるこの活動はボランティアの方々が中心。見守り活動は地域を問わず重要な活動です。マイウェイ四谷もまた地域の一員。今後も地域活動には積極的に協力してまいります。

**お知らせ****永生病院 図書室再開のお知らせ**

永生病院の耐震工事に伴い、一時閉室していた図書室が2月1日から再開しています。研究や勉強に役立つ専門的な資料、実用書、雑誌などを取り揃えています。また、喫茶コーナー(セルフサービス)が期間限定で利用可能!仕事の合間にくつろげるスペースもご用意しています。ぜひ足を運んでみてください。



*地域への開放はしていませんが、図書館とは別に永生病院ロビーには図書コーナーがありますのでこちらも是非ご利用ください。

永生会の認知症に対する取組みと活動。

今号のテーマは「認知症」。認知症への知識と理解を深め、認知症になっても安心して利用できる生活や施設の体制強化に向けての永生会の活動についてご紹介します。

認知症のいま



現在、我が国の総人口に占める65歳以上の人口割合は26%、そのうち7人に1人は何らかの認知症状を抱えているというデータがあります。このように今や認知症は生活習慣病と同じくらい身近な症状となってきています。その為に様々な予防策がメディア等で紹介されています。そして今、予防と同時に私たちは「認知症になっても安心して医療を受けられる」「住み慣れた地域で安心して暮らせる」事も同時に考えることが求められています。

認知力の低下が進むと、日常生活のあらゆる場面で出来なくなることが増えます。しかし、何もかもが失われるわけではありません。周りの人がそのことを理解し、わからなくなっても困らない生活の工夫、また混乱や不安を抱えず治療・療養が出来る関わりや環境に配慮する事が大切です。

病院やクリニックでの取組み

■ 認知症サポートチームの立ち上げ（永生病院）

永生病院では、認知症に精通した医師やコメディカルが共働し、認知症の方やそのご家族、多くのスタッフを支えていくチームの設置を検討しています。



■ もの忘れ外来（永生クリニック）

永生クリニックの専門外来のひとつにもの忘れ外来があります。「最近、もの忘れが多い」などの不安や悩みをお持ちの方は早めの受診をおすすめします。症状によっては治療や回復が可能なものもあります。その他にもご相談のある方はお気軽に問い合わせください。

※診療日程が変更になる場合があります。

また、予約が多く新規でお受けできない場合があります。

詳細はお電話にてお問い合わせください。

永生クリニック TEL.042-661-7780（代表）

●お問い合わせ時間／平日9:00～16:30

●休診日／日曜日・祝日・年末年始（12月30日～1月3日）



地域への情報発信にも努めています

■ 講義・講座の開催や学会への参加など

永生会では、認知症をテーマにした講義依頼や新人スタッフへの教育研修に対しての講師派遣、包括支援センターによる認知症サポーター養成講座の開催、その他にも多くの講座を開催しています。また外部の学会（日本認知症グループホーム協会実践発表会）などにも積極的に参加しており、情報収集を通じての地域への発信に努めています。



■ 2/26に八王子市内で開催された 言語聴覚士による対認知症の コミュニケーション講座

情報を発信するスタッフは多職種にわたります。



■ 地域情報誌へのトピック連載

永生会には認知症看護認定看護師（日本看護協会の認定看護師認定審査に合格し、認知症の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することが認められた者）が在籍しており、地域情報誌への認知症トピックを定期的に連載しています。

地域との交流（RUN伴への参加）



■ 地域交流にも参加！

●RUN伴（らんとも）への参加

RUN伴（らんとも）とは、認知症の人も、そうでない人も、共に一つのタスキで北海道から沖縄までタスキリレー形式で日本全国を結ぶイベントです。八王子においては2016年10月に初めて開催され、認知症の方に加え、近隣の施設スタッフ同士の交流も図られて非常に盛り上がりました。毎年開催されていますのでご興味のある方は是非ご参加ください。

●参考ページ RUN TOMO-RROW 2016

<https://runtomo.jimdo.com/>



看護師やリハビリスタッフをはじめ、多くの職員が参加。参加ランナーの最後尾はロードバイクで参加した当法人の地域包括支援センター職員が努めました。

ケア・カフェハ王子が山梨に遠征!

地域でケアなどに関わる人たちによる交流コミュニティ、ケア・カフェ。全国各地で行われていますが、「やってみたいけどきっかけが無い…」「やり方がわからない…」などの悩みで形にできていない地域は多くあります。今回、そんな地域



認知症の方や家族を支える「支援の輪」:認知症サポーターについて



近年になって増加してきている認知症サポーター。これは、認知症について正しく理解し、認知症の人やその家族が安心して暮らしていくように温かく見守り、支援する応援者のことです。例えば、徘徊しているお年寄りを見つけたら声をかけたり警察に連絡したり、また毎日同じ物を買いにくる方がいたらそれとなく声をかけるなど、自分のできる範囲でボランティアとして認知症の人や家族を支援していきます。

厚生労働省の「認知症を知り地域をつくる」キャンペーンの一環として実施している「認知症サポーターキャラバン」事業による認知症サポーター養成が各地で積極的に行われており、近年では警視庁においても警察官と職員を対象に養成講座が取り入れられました。現在、全国の認知症サポーター数は約850万人(2016.12.31現在)となっています。養成講座を受講した人には認知症サポーターの証として「オレンジリング」(オレンジ色のブレスレット)が渡されます。

今号の最後のページにも認知症サポーター養成講座の案内を掲載しておりますので、是非、ご受講ください。

交流に意欲のある山梨県の一宮温泉病院から立ち上げの協力依頼をいただき、スタッフが遠征に行ってまいりました!ケア・カフェハ王子特有の元バーテンダーによる本格的なドリンク提供などで場づくりに貢献。参加者は医療スタッフに加え、地域住民や患者家族などを受け入れ、46名と大盛況。今回の会で様々な気づきが得られたと同時に、次回開催を一宮温泉病院の皆さんで企画したこと!頑張ってくださいね!



一宮温泉病院の在宅部門長、望月さん。今後も継続的に開催したいとのこと。

問い合わせ先

ケアカフェハ王子 (担当:湯浅)
TEL. 080-2349-7308

永生総合研究所

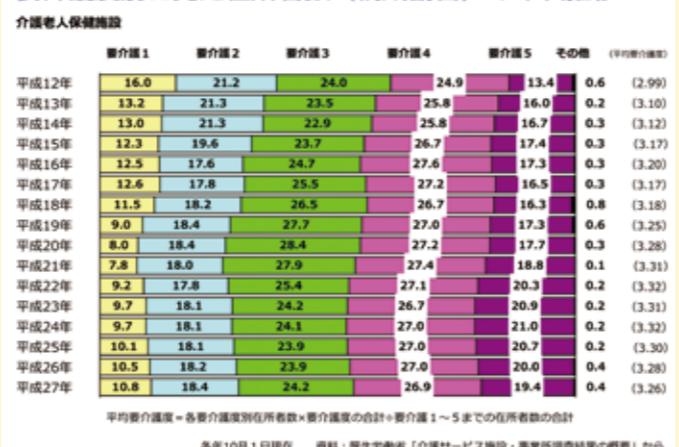
介護老人保健施設とターミナルケア

老人保健施設は病院から在宅復帰への中間に位置する施設という性格を持って作られたことは71号でご紹介しました。しかし、社会や環境の変化によって施設の担う役割が変化したり新たな役割を持った施設が開設されることもあります。図は、平成12年に介護保険制度が導入されてからの介護老人保健施設(以下老健施設)に入所されている方々の要介護度の割合の推移を見たものです。ここにはご紹介していませんが、介護療養型医療施設や特別養護老人ホームに比べれば低いものの、介護保険導入から10年間は平均要介護度が上昇したことが分かります。病院での治療が一段落し、でも在宅に戻れない方々が老健施設をご利用されることも増え、その結果老健施設で人生を全うされることも増加しました。厚生労働省も平成21年の介護報酬改定において、老健施設にもターミナルケア加算を導入、老健施設でのお看取りも評価するようになりました。その一方で平成24年には、老健施設の在宅復帰支援機能の強化を評価する介護報酬改定が行われています。ご利用者のニーズに応えられる多様な対応が求められているのでしょうか。

老健施設でお亡くなりになられた方は、平成12年には全国で4,818人でしたが、平成20年には1万人を超え、平成27年には平成12年の6倍の29,127人となっています。全国の老健施設も頑張っていると言えます。

永生会においても、在宅復帰される方にもここで人生を全うされる方にも、大切な時間を過ごされる場として最善の療養環境をお迎えしたいと思っています。

要介護度別に見た在所者数(構成割合)の年次推移



あのかた
このかた

気になる職員にスポットを当ててご紹介するこのコーナー。
今号はグループホーム寿限無の石井施設長をご紹介します。

いしい けいすけ
認知症グループホーム寿限無 施設長 石井 啓輔



先入観を持たず、その人らしさをお手伝いする

●この仕事に就いたきっかけは?

中学生時代に交通事故で大けがをしたのですが、障害も残らず復帰できたという経験をしています。治療を担当してくれた医師をはじめ多くの人に助けられたので、人のためになる仕事をしようと考えこの仕事を選びました。シンプルに人と関わることが好きなんだと思います。でも最初は警察官になろうとしていました。剣道には自信がありますよ(笑)。

●この仕事で大事なことは?

認知症というものに先入観を持たないことです。病気、障害といった目線だとその目線でのアプローチになる。そうではなく皆さんふつうの高齢者です。記憶や行動の部分でちょっと不自由が出たところをお手伝いすれば良いだけ。新しく入職する人にはこの考え方を持って欲しいです。

●今後やりたいことは?

スタッフの活躍の場を作りたいです。医療ではなく介護だからできること、得られることはたくさんあります。近隣地域との交流も大事にしているので、地域でも有名な介護職のスターが寿限無から生まれると嬉しいですね。

Profile

●資格:介護福祉士 ●趣味:剣道(全日本剣道選手権大会に出場経験あり)、野球、釣り

